



## 独立行政法人 佐世保市総合医療センター様



## ■所在地

長崎県佐世保市平瀬町9-3

## ■病床数

594床（一般570床、結核20床、感染症4床）

## ■主な認定・指定

救急告示病院、地域医療支援病院、地域災害拠点病院  
地域がん診療連携拠点病院、日本病院機能評価機構認定病院  
など

佐世保市総合医療センター様は長崎県北部に位置し、地域住民の医療を支える基幹病院として、高度急性期医療を提供している病院です。病院医療安全の質の向上、および看護師の業務負担軽減を目的として2020年よりユカリアタッチをご活用いただいております。ユカリアタッチ導入時の経緯、および現在の院内で果たしている役割について、副院長兼看護部長 緒方 信子様、医療安全管理者 古田 美佐子様にお話を伺いました。

## 医療者と患者さんのコミュニケーションツールとして定着 医療現場の安全を支えています

### アナログで煩雑だったベッドサイドの環境がすっきりと改善

ー ユカリアタッチを導入された背景や経緯をお聞かせください。

**緒方様：**医療安全の質の向上、および看護師の業務負担軽減の2点を主な目的として、導入を決定しました。

医療安全の観点からすると、以前は患者さんの様々な制限や注意事項をベッドサイドの小さなホワイトボードに書いたり貼ったりしていました。実際、内容の更新がされていなかったり、何と書いてあるか分からなかったりというような状況を見て、リスク回避のためには皆が見て分かる電子媒体を使うのが良いと考えました。

さらに、ユカリアタッチを導入している他の病院に視察に行くと、特にバイタル機器連携の機能を活用することで、測定値の記録にかかる時間をかなり短縮できたという話を聞き、看護師の業務改善の一環としての効果も期待できると考え、導入を進めました。

**古田様：**実際の導入にあたっては、現場の看護副院長を中心としたプロジェクトチームを立ち上げ、具体的にどうやったら医療安全上のリスクを軽減できるか、業務の効率化が達成できるか、という検討を重ねていきました。ピクトグラムの表示を決める段階では、看護部だけでなくリハビリテーション室のメンバーや多職種も含めて検討を行い、導入に至りました。

### 「お知らせ機能」の活用で部署や職種を越えたコミュニケーションがスムーズに

ー 実際に医療安全のためにユカリアタッチをどのように活用していますか。

**古田様：**まずはお知らせ機能ですね。スタッフ間の情報共有やそれぞれの部署からの患者さんに対する注意事項を配信する場として使っています。例えば、「転倒・転落防止のためにベッドセンサーを使用しており、起き上がり〇秒でナースコールが鳴るような設定にしています」という情報は、ケアを担当するスタッフも確認できますし、患者さんへのご説明にも使っています。ベッドサイドで確認ができると、そのセンサーや設定が適切かどうか、その場ですぐ評価ができるので、看護計画にも繋がってきます。

**緒方様：**以前、情報の連携が上手くできておらず24時間のホルター心電図を早めに外してしまったというインシデントがありました。それ以降、検査室から「〇時に外してください」という表示をするようにして、同様のリスクを回避しています。

部署や職種を越えたコミュニケーションツールとして、最終的には患者さんに不利益をもたらさないように利用しています。

**古田様：**あとは、実際にナースコールが鳴って排泄介助をするというような時、以前であればその患者さんの介助方法を毎回確認しなくてはならないような状況だったわけですが、ユカリアタッチのピクトグラムを見ればきちんと統一したケアがその場でできる、というところが安心ですね。昨今、特に入院期間が短くなってきている中で、患者さんの状態の変化にあわせてしっかり表示ができるというのが良いと思います。（→次頁へ）



副院長兼看護部長 緒方様（左）、医療安全管理者 古田様（右）



— 「ピクトグラム」だけでなく、表示できるメッセージの自由度が高い「お知らせ機能」も多職種で有効活用されているのですね。

**緒方様**：そのほかにも「経過表」の表示で直近のバイタルの数値が確認できるので、例えば看護師がバイタルを測って、その後ほぼ同じ時間にリハビリの人が来てまた血圧を測って、ということを経ずにユカリアタッチを確認してもらっただけですぐリハビリに行けるようになりました。看護師、リハビリスタッフの業務効率化だけでなく、患者さんへの負担も軽減されるので良いですね。

全ての職種の方が電子カルテを持ち歩いているわけではないので、そういう意味でも多職種での情報共有のプラットフォームとして活用ができますね。リハビリ以外でも、例えば電子カルテを持ち歩かない看護補助者の方も、ベッドサイドで患者さんの状態や禁止事項などを確認して、自分たちのケア計画にも繋がっていくと思います。

## ユカリアタッチで情報収集からバイタル入力が完結。 院内感染対策にも一役買っています

— 今や院内の情報共有ツールとして定着しているのですね。

**緒方様**：そうですね。特にここ数年はCOVID-19の重点医療機関として中等症以上の患者さんを積極的に受け入れてきましたので、レッドゾーンの中に電子カルテを何台も入れることができない、**コロナ病棟でも有効活用**できました。

何か電子カルテの情報を確認したいときに、毎回PPE（個人防護用具）を全て外して、というのは感染リスクも高まり手間も増えてしまいます。バイタル連携機能もありますので**部屋の中でバイタル測定から入力、確認までがシームレスに完結**されます。



インタビューにご協力をいただいた、ユカリアタッチをご利用いただいている病棟看護師のお二人（中央）▶

## 小さな業務効率化やリスク軽減の積み重ねが、患者さんと職員の安心・安全に

— 導入を検討されている病院の方々へ、メッセージをいただけますか？

**緒方様**：働き方改革や業務改善という文脈では、例えば今まで紙に書いていたものをユカリアタッチに置き換えれば1分くらい違うとします。たかが1分と思われるかもしれませんが、それが全看護師の積み重ねだと考えると、この時間が30分、1時間となり、その結果患者さんのベッドサイドで使える時間が増えるということになります。**わずかな時間やリスク回避の積み重ねが大きな業務改善、さらには患者さんの安全に繋がると**思います。

なので、看護部だけでなく病院全体のチーム医療で使う1つのツールとして、ここに投資するか、いつするか、というのは検討の価値があると考えます。

**古田様**：ユカリアタッチは患者さんの安全も、職員の安全も担保するために有効なツールだと思っています。スタッフに無くなったらどうする？と聞くと、「いやいや毎日使っているので、無くなったら困ります」なんて言われます。

※役職は導入当時

### ユカリアタッチ 導入・活用のケーススタディ

- 01 ベッドサイドのアナログ掲示を廃止し、正確かつわかりやすいデジタル表示でリスク回避
- 02 「お知らせ機能」は院内全体の情報共有プラットフォームとしてフル活用
- 03 バイタル連携機能で感染症対応も安心、測定値の記録時間も削減

■お問い合わせやdemoのご依頼はこちらから

株式会社ユカリア  
デバイス事業部 ユカリアタッチチーム

 03-6457-9309 (月~金、9:00~18:00)

 et@eucalia.jp



EUCALIA



ユカリアタッチ

検索